



第190号

# 連携室だより



公益財団法人 北海道医療団 **帯広第一病院**

発行 公益財団法人北海道医療団 帯広第一病院 地域医療連携室

〒080-0014 帯広市西4条南15丁目17番地3

TEL 0155-25-3121(病院代表)

## 帯広第一病院理念・基本方針

### 【理念】

地域に信頼される病院を目指し、質の高い、思いやりのある医療サービスを提供する。

### 【基本方針】

- 1 患者の皆様の安全と権利を守ります。
- 2 地域医療機関との連携を推進します。
- 3 救急医療の充実に努めます。
- 4 研修や教育を積極的に行います。
- 5 働きがいのある職場を作ります。



**東北大学消化器内科  
正宗 淳教授  
カンファレンスの様子**

## 今号の内容

- ・東北大学消化器内科正宗 淳教授カンファレンス開催報告 消化器内科 部長 乗田 一明  
専攻医紹介 消化器内科 専攻医 七田 真之 ..... (2)
- ・がん終末期医療を緩和ケア病棟と在宅緩和ケアの両面で支援しています。 院長 山並 秀章  
高校生を対象に新型コロナウイルスワクチン一般特別接種を行いました！ ..... (3)
- ・周術期に関わる医療者と手術看護について 手術室 師長 山口 智子 ..... (4)

## 東北大学消化器内科正宗淳教授 カンファレンス開催報告



消化器内科 部長 乗田 一明

地域の先生方におかれましては常日頃より、当院に患者様をご紹介頂き誠にありがとうございます。当院消化器内科は東北大学消化器内科の関連病院として医局員を派遣頂いておりますが、この度東北大学消化器内科正宗淳教授をお招きし、院内カンファレンスを行う機会を得ましたのでご報告申し上げます。

当院は現在膵癌早期診断プロジェクトによる膵癌早期発見・治療にとどまらず、急性/慢性膵炎等の膵疾患治療全般に力を入れております。来院される患者さんのうち、特に最近では若年者の重症急性膵炎症例が増加傾向にあります。2011年の全国調査によれば急性膵炎全体の国内における死亡率は1.9%、重症急性膵炎においては8%と報告されており、31~69歳までの年代別でみると7%未満とされております。今回正宗淳教授をお迎えし、現在当院で治療中の30歳台の重症急性膵炎症例を複数症例提示し、治療方針について助言を頂きました。

これまでの治療法に加えて最新のガイドラインでは入院48時間以内の経腸栄養を基本にTPN管理を行うことが強く推奨されていることを再確認致しました。また、膿瘍/感染性膵仮性嚢胞などの膵局所合併症に対するインターベンション治療（超音波内視鏡下穿刺ドレナージ術、CTガイド下経皮的ドレナージ術等）についても新たな知見を得ることができました。

今後も当院では膵疾患の早期診断、治療介入に積極的に取り組んで参ります。お困りの症例があればいつでも、気軽にご紹介いただけましたら幸いです。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



## 専攻医紹介

～10月から来年3月まで勤務される七田先生にインタビューしました～



### 消化器内科

専門分野：内科  
帯広厚生病院 所属

しちだ まさゆき

七田 真之

平成29年3月 群馬大学 医学部 卒業

平成29年4月 帯広厚生病院 入職

令和3年10月 帯広第一病院 着任

#### 1 消化器内科を選んだ理由

まだ定まっていませんが、内科系を志望しています。  
十勝でも消化器の症例数が多く希望しました。

#### 2 当院の印象

働きやすい印象です。

#### 3 当院でやりたいことは？

内視鏡をたくさん経験したいです。

#### 4 これからの抱負

なるべく早く環境になれてお力になれるよう頑張りたいです。

#### 5 地域の先生方へ一言

色々ご面倒をおかけいたしますが、よろしくお願いいたします。

## がん終末期医療を緩和ケア病棟と在宅緩和ケアの両面で支援しています。

院長 山並 秀章

当院の診療の柱は、「救急医療」「消化器がん高度医療」「緩和ケア診療」の3つであり、中でも消化器分野のがん診療では、内科・外科ともに専門性の高い最先端医療の提供を目指しています。特に早期大腸がんに対するESD（内視鏡による広範囲がん切除）などの内視鏡治療、悪性疾患に対する腹腔鏡下手術では、数多くの実績を積み上げています。



2018年には、十勝エリアでは初、道内では22番目の緩和ケア病棟を開設し、緩和ケア科吉田弘医師を中心に終末期における質の高い緩和ケアを提供しています。特に消化器がん患者においては診断から治療、終末期医療に至るまで一貫して対応できる体制を整え、施設基準の要件となる日本医療機能評価機構の認定を受けています。18室すべてが無料の個室、車椅子に座っていても日高山脈を一望できて、くつろいで過ごしいただけます。

また緩和ケア病棟での診療を通して、終末期以外の患者にも対応した在宅医療の必要性を実感、365日24時間体制を構築し、訪問診療の提供を開始しています。訪問診療と関連施設の訪問看護ステーションたなごころが連携し、さらに市内開業医にも協力を受けることで、患者様の在宅医療に寄り添っています。

特にがん終末期医療は、緩和ケア病棟と在宅緩和ケアの両面で支援し、選択肢が広がるため、患者様にもご家族にも喜ばれており、引き続ききめ細やかな対応を心がけていきます。

対象の患者様がいらっしゃいましたら、地域医療連携室までご紹介頂けましたら幸いです。



## 高校生を対象に新型コロナウイルスワクチン 一般特別接種を行いました！



10月15日（金）から11月19日（金）の間の毎週金曜日に受験や課外活動を控えた高校生の皆さんやお勤めされている方が接種を受けやすいように19時まで設定し、新型コロナワクチン接種をよりスムーズに受けていただけるよう、ご支援させていただきました。

他部署の職員同士が協力して行い、その都度改善していきながら、待ち時間を短縮し、大きな問題なく終了することが出来ました。

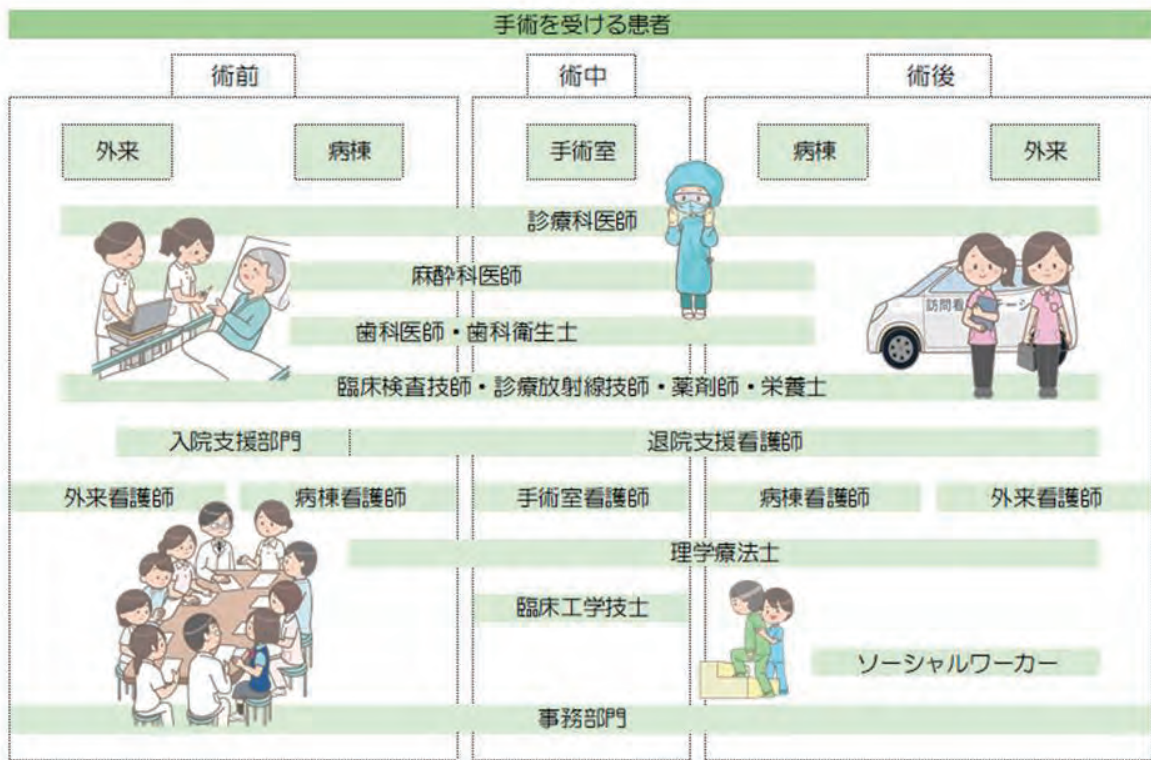


# 周術期に関わる医療者と手術看護について

## 手術室 師長 山口 智子

周術期とは手術を受ける患者の術前、術中、術後を通した全期間であり一般的には手術が決定した時点から、入院して手術を受け退院し、もとの生活環境に戻るまでの期間を指します。私達手術室看護師は、手術中の安全安心な看護を第一に考え、日々取り組んでいます。特定の分野で専門的な知識と熟練した技術を用いて看護実践する専門看護師や認定看護師等と協同し、患者中心の看護に視点を置き、患者に寄り添った看護を目指し日々努力しています。

その他にも、さまざまな職種の医療者が関わり、協力して患者がおかれている状況の中で最善を尽くし、専門性を発揮しています。患者の移動に伴い一貫性と連続性を維持できるように各部門が連携を図り、安心して日常生活に戻れるよう、お手伝いさせていただいております。



### 地域医療連携室より

気が付くともう11月になってしまいました。今年もコロナに振り回された1年になりました。私は個人的に11月にこれまで色々なことがあったので、とても感慨深い月です。最近も色んなことの変化がありますが、このままコロナも収束してほしいと願うばかりです。

野球観戦が好きな私は、BIGBOSSに注目です。コロナも落ち着いて、来年は札幌に観戦に行けないかなと思っています。長く続けて行くという体制も大切なことありますが、新しい風が入ると良い方向に行くこともあるな…と、やはり必要なことだなと改めて思っています。

(林 栄一)

### 【地域医療連携室】

TEL 0120-558-091(連携室直通)

FAX 0155-27-0248(連携室専用)

連携室専用e-mail renkei@zhi.or.jp

### 【担当スタッフ】

- |                |                 |
|----------------|-----------------|
| 林 栄一 (MSW課長)   | 大 熊 三紀子 (事務職主任) |
| 山 形 弘一 (MSW係長) | 井 本 未 来 (事務職)   |
| 川 元 希 (MSW主任)  | 後 藤 知 子 (事務職)   |
| 数 田 紗 奈 (MSW)  | 昌 本 美 優 (事務職)   |
| 宮 岸 さとみ (MSW)  |                 |
| 沼 田 直 江 (MSW)  |                 |